

平成30年2月13日

各位

会社名 ワイエスフード株式会社
 代表者名 代表取締役社長 緒方正憲
 (JASDAQ・コード番号3358)
 問合せ先 取締役管理本部長 岩下征吾
 TEL 0947-32-7382

特別損失(減損損失)の計上及び通期連結業績予想の修正
 並びに配当予想の修正(無配)に関するお知らせ

当社は、平成30年2月13日開催の取締役会において、平成30年3月期第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日～平成29年12月31日)における特別損失の計上についてお知らせするとともに、平成29年5月15日付にて開示しました、平成30年3月期の通期連結業績予想につきまして、下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

1. 固定資産の減損損失の計上について

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社が保有している固定資産の一部について減損処理を行うもので、収益性が低下し投資額の回収が見込めなくなった資産に加え、賃貸借契約満了等により閉店及び継続的に営業損失を計上している資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当第3四半期連結会計期間において、減損損失18百万円を特別損失として計上いたします。

2. 平成30年3月期通期連結業績予想数値の修正

連結業績予想の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------------------|-------|------|------|-------------------------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想(A) | 1,861 | 56 | 46 | 32 | 8.42 |
| 今回修正予想(B) | 1,714 | △71 | △81 | △112 | △28.99 |
| 増減額(B-A) | △147 | △128 | △128 | △144 | |
| 増減率(%) | △7.9 | — | — | — | |
| (ご参考)前期実績 (平成29年3月期) | 1,793 | △37 | △43 | △105 | △27.30 |

3. 平成30年3月期配当予想数値の修正

配当予想の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

| | 年間配当(円) | | |
|------------------------|---------|-------|-------|
| | 第2四半期 | 期末 | 合計 |
| 前回予想 (平成29年5月15日発表) | | 5円00銭 | 5円00銭 |
| 今回修正予想 | | 0円00銭 | 0円00銭 |
| 当期実績 | 0円00銭 | | |
| 前期実績 (平成29年3月期) | 0円00銭 | 5円00銭 | 5円00銭 |

4. 連結業績予想の修正及び配当予想の修正（無配）の理由

連結売上高につきましては、当第3四半期連結会計期間において地元ラジオ局とのタイアップ企画による餃子をメインとした販促セールの実施や、地域のイベントに積極的に参加する等、緩やかな回復基調はあったものの、依然として人手不足を背景とする営業時間の短縮等の影響により、売上高の改善が図れなかったことから、国内F C店舗における食材取引高が減収となり、さらに、海外事業におきましても、中国において「遣唐拉麺」ブランドが増加しているものの、その他の国と地域において出店計画を下回っていること等の影響から、海外食材取引高も減収となっており、通期連結業績予想における売上高は、147百万円程度下回る見込みとなりました。

また、利益面におきましては上記で述べた減収が起因となり、営業利益において128百万円程度、経常利益128百万円程度、さらに、減損損失の計上の影響等から、親会社株主に帰属する当期純利益は144百万円程度計画を下回る見込みであります。

当社は、株主様に対する利益還元は経営上の最重要課題のひとつと認識しており、中長期的に利益成長を続け、利益水準及び内部留保の状況等を勘案し、配当を実施することを基本方針としております。

上記で述べましたとおり、平成30年3月期の連結業績予想は、当期純損失となる見込みであることに加え、今後の経営資源を事業活動に集中し、早期の業績回復を最優先とするため、誠に遺憾ではございますが期末配当を見送らせていただくことといたしました。

当社グループとしましては、当第3四半期連結累計期間までの実績及び上記で述べた連結業績予想の修正を踏まえ、国内F C店舗における人手不足を解消するために、海外留学生を対象にしたインターンシップ制度の導入や効果的な求人募集ツールを活用し、店舗営業時間の標準化に注力するとともに、「国内店舗の純増」への取組みとして、加盟希望者の低資本・低リスクを目的とする、居抜き店舗を活用した、低予算型のオリジナルブランドの確立へ取組み、新たな収益源の基盤の再構築に注力してまいります。

さらに、平成29年12月に中国での越境E C事業に特化した100%子会社「ワイエス商事株式会社」を設立しており、平成30年1月には実際に取引が成立しておりますので、来期の業績に与える影響は大きいと判断しております。

また、平成30年1月22日付で開示しました「株式会社餃子計画との業務提携に関する基本合意書締結のお知らせ」に記載のとおり、当社と株式会社餃子計画は、経営ノウハウ及び経営資源等を相互活用するとともに、お互いの得意分野や営業拠点並びに人的資産を活かし、収益向上及びコスト削減に注力するとともに、相互の企業価値及び株主価値の向上を図っていくことを目的に、業務提携に関する基本合意書を締結いたしましたので、今後の事業の拡大・充実化を進め、財務基盤の強化に取り組み、株主様に対する利益還元に注力してまいります。

※上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上